

国語

➔ 1年生 | 「カードでことばをおぼえよう」

カードを使った
語彙力育成授業プラン

1. はじめに

次期学習指導要領では、ことばの力として、語彙力を高めることが求められている。しかし、一朝一夕には身につけられない。楽しみながら学べる方法は、ゲーム感覚を取り入れたものであろう。

そこで市販されているカードの扱い方を考えてみた(文房具店やネット通販など、多くの店で扱いがあるが、今回は大手百円均一店で売られているものを使った)。対象として、ひらがなを習い始めた1年生を想定しているが、発達障害の可能性のある児童も想定して授業を試みている。

2. <プラン1>「絵合わせカード」の活用

「絵合わせカード」は、ひとつの絵をふたつに分けたカードになっている(右参照)。カードには日本語と英語でその絵の名前が書かれている。ことばを隠してカードを提示し、それが何なのかを想像させて、クイズとして出す。

「これは何の絵でしょう」と問いかけ、答えを言う時には、残りの半分のカードを教師が見せて答え合わせをする。右側には英語で書かれているので、英語で書かれていることを提示して問いかけることもできる。正解したことばをノートやワークシートで練習し、語彙を増やしていくといいだろう。「動物」「食べ物」「乗り物」編などがあり、その他の語彙については、自作することもできる。

3. <プラン2>「ひらがなカード」の活用

「ひらがなカード」(右上参照)は、五十音でひらがな3文字のことばと絵が描かれている。絵だけ提示して、何かを言わせるところから始めるといいだ

ろう。その次の段階として、以下の方法でも行うことができる。

①カードでしりとり
いるか→からす→すいか



②間を埋める
いるか→□□□→すいか



③並べて文作り

「いるかが、からすといっしょに●●した」

「いるかは、からすに●●と言った」

「いるかが●●をからすにした」

など、教師が日本語の構文(上記●●の部分や述部など を引いた箇所)を与えた上でカードを引かせ、主語などの単語をカードの語彙で埋めて遊ぶという方法をとる。

4. 終わりに

小学校1年生は、学校教育の入門期として捉えることもできるが、文字・文章との出会いの時期であるとも捉えられる。ことばの獲得は、「文字」「単語」「文節」「文」「段落」「文章」というように、少しずつ単位を大きくしながら捉えつつ指導する必要がある。このことは「発達性ディスレクシア」など、ことばの獲得や運用に壁のある児童に対しても有効に働くと想定している。

今回は、市販のカードの活用法を提示したが、子どもたちと一緒にカードを作って遊ぶこともできるのではないだろうか。カードを使うことで、ことばが示す「もの」が視覚化され、よりわかりやすい授業になる。カード以外の遊びの要素の入ったものを使ったり、同じカードでも活用方法を工夫したりするなどして語彙力育成の授業を創ってほしい。そのためには、教材研究のために街に出かけて行くことが必要である。